



校訓

なかよく かしこく たくましく

ちがいを豊かさに 自分に夢と自信を

令和6年3月19日 第25号 文責 梶原 圭一



◆◆◆1年間 ありがとうございました◆◆◆

令和5年度も、いよいよ終わろうとしています。本年度も本校の教育活動に対して、ご理解並びにご協力いただき、心よりお礼申し上げます。5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更となり、様々な教育活動の制限も緩和され、日常の学校生活が3年ぶりに戻ってきた1年でした。しかし、以前の学校生活を知らない子どもたちもいて、しばらくの間は、制限のない生活に慣れずに不安を感じる子もいたことでしょう。今では、マスクを外して友だちと談笑する姿が日常になっていて、安心しているところです。

本年度は、学校創立50年という節目の年でした。校内で行う様々な行事に対して「50周年記念」という言葉をつけ、子どもたちにも意識づけを図ってきました。児童会目標の中にも「50周年をもりあげよう」という言葉が入っていて、児童と職員が共に力を合わせながら本校の教育活動を創り上げてきました。特に6年生は、学校のリーダーとして、委員会活動やクラブ活動等、積極的に行動してくれ、成長を感じました。

子どもたちの1年間の成長を振り返るに当たり、育てたい資質・能力の「**伝え合う力**」「**つながり合う力**」「**やり抜く力**」の3点から考えてみました。

「**伝え合う力**」では、コロナ禍の時と比べ、様々な形で自分の考えを発表する機会が増え、話す力が向上してきたように感じます。授業中の友だちと話し合う活動では、活発に意見を出す場面が見られています。人権集会や委員会活動等で発表する際も、堂々と自分の意見を述べる様子を見せてもらいました。さらに「伝え合う」を高めていくために、子どもたちの成長に応じて、意見の相違を注意深く聞き取る力にも目を向けた取組を進めていきたいと思っています。

「**つながり合う力**」では、日頃のあいさつや感謝の気持ちを表す「ありがとう」を伝える取組を大切にしてきました。また、社会の中で生活していくために必要なコミュニケーション力を高める取組（ソーシャルスキル・トレーニング）も進めてきました。それぞれの学級では、自分の思いを綴り、語りながら友だちの思いに触れる活動も行われています。その成果として、校長室前の「人権の木」には、友だちのよさを記した葉でいっぱいになっています。次年度も、相手の立場を考え、違いを認め合い、気持ちを受け止める力を伸ばす取組を大切にしていきたいと考えています。

「**やり抜く力**」では、「あきらめない 絶対あきらめない」を合い言葉に、一つ一つのことを最後まで徹底する取組を行ってきました。1年間粘り強く取り組んだ靴やスリッパ並べについては、校内では意識付けが進みました。些細な取組であっても、みんな「できた」という成功体験をより多く積み重ねていくことで、自分への自信をさらに深められる取組を考えていきたいと思っています。

「**ちがいを豊かさに 自分に夢と自信を**」もてる子どもたちの姿を求め、次年度も全職員力を合わせて教育活動に取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動に対するご支援の程、よろしくお願いいたします。

